

Web Information

ホームページのご案内

当社のホームページでは株主・投資家の皆様に対して、企業情報や財務情報をはじめとして、積極的に情報開示を行っています。製品情報に加えて最新のトピックスを随時更新し、当社の事業活動や動向を紹介しています。また、事業報告書のバックナンバーも掲載しております。当社をよりご理解いただくためにも、ぜひアクセスして下さい。



URL <http://www.vtec.co.jp/>

株主メモ

- 決算期日 毎年3月31日
- 定期株主総会 毎年6月
- 上記基準日 毎年3月31日
その他必要のあるときは、あらかじめ公告して随時に基準日を定めます。
- 配当金受領株主確定日
- 利益配当金 3月31日
- 中間配当金 9月30日
- 公告掲載新聞 日本経済新聞
なお、当期より「決算公告」に代えて、貸借対照表および損益計算書を当社ホームページ (<http://www.vtec.co.jp/>) に掲載しております。
- 名義書換代理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒171-8508 東京都豊島区西池袋一丁目7番7号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-707-696 (フリーダイヤル)
- 同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
野村證券株式会社 全国本支店
※住所変更等に必要な各用紙及び株式の相続
手続依頼書のご請求は、専用のフリーダイヤル
0120-86-4490 (24時間:自動音声対応) にて
承ります。

株式会社バイ・テクノロジー

〒240-0005 横浜市保土ヶ谷区神戸町134 YBPイースタワー 9F

FINANCIAL REPORT

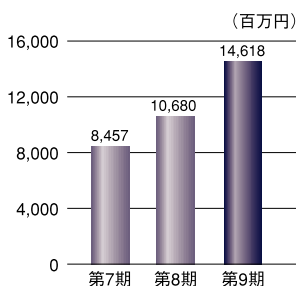
第9期事業報告書

2005年4月1日～2006年3月31日

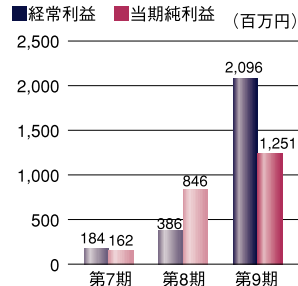


財務ハイライト (凍結)

売上高



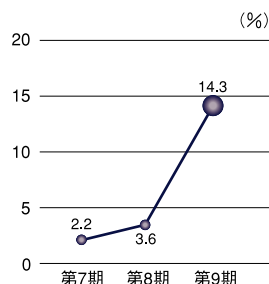
経常利益／当期純利益



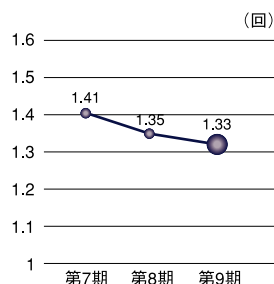
項目	第7期 H.15.4.1～ H.16.3.31	第8期 H.16.4.1～ H.17.3.31	第9期 H.17.4.1～ H.18.3.31
売上高 (百万円)	8,457	10,680	14,618
経常利益 (百万円)	184	386	2,096
当期純利益 (百万円)	162	846	1,251
経常利益率 (%)	2.2	3.6	14.3
総資本回転率 (回)	1.41	1.35	1.33
1株当たり当期純利益 (円)	3,698.49	19,043.65	27,856.83
1株当たり株主資本 (円)	66,575.41	86,741.52	116,530.96
ROE (%)	5.6	21.9	27.3

注) 第8期において株主分割を行っているため、第7期の1株当たり当期純利益及び株主資本は分割後株数にて計算してあります。

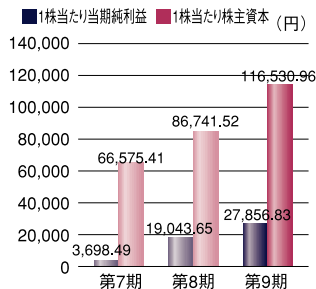
経常利益率



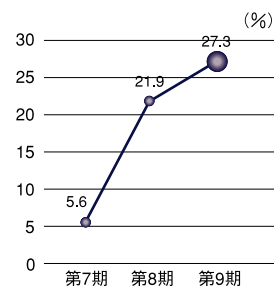
総資本回転率



1株当たり当期純利益／1株当たり株主資本



ROE



財務諸表（単体）

貸借対照表（要旨）

（単位：千円）

科目	当期 H18.3.31現在	前期 H17.3.31現在
資産の部		
流動資産	11,844,405	7,992,074
固定資産	974,526	462,990
有形固定資産	201,706	168,548
無形固定資産	15,567	16,436
投資その他の資産	757,252	278,006
資産合計	12,818,931	8,455,064

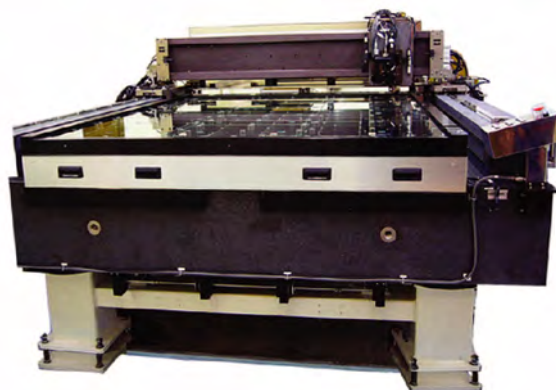
損益計算書（要旨）

（単位：千円）

科目	当期 H17.4.1～H18.3.31	前期 H16.4.1～H17.3.31
売上高	14,238,964	10,526,267
売上原価	10,368,137	8,314,022
売上総利益	3,870,827	2,242,474
販売費及び一般管理費	2,020,163	1,805,376
営業利益	1,850,663	437,097
営業外収益	24,231	5,234
営業外費用	48,405	133,574
経常利益（△損失）	1,826,489	308,757
特別利益	—	6,000
特別損失	25,158	31,413
税引前当期純利益（△損失）	1,801,331	283,344
法人税、住民税及び事業税	711,877	12,992
法人税等調整額	757,999	△499,811
当期純利益（△損失）	1,043,332	783,155
前期繰越損失	—	1,630,887
処理損失（△）	1,043,332	△847,731

（単位：千円）

科目	当期 H18.3.31現在	前期 H17.3.31現在
負債の部		
流動負債	7,808,161	4,592,076
固定負債	65,142	109,869
負債合計	7,873,303	4,701,946
資本の部		
資本金	2,122,862	2,048,761
資本剰余金	1,778,800	2,552,431
利益剰余金	1,043,332	△847,731
その他有価証券評価差額金	2,214	403
自己株式	△1,581	△746
資本合計	4,945,628	3,753,118
負債・資本合計	12,818,931	8,455,064



測定装置 Mercury シリーズ

財務諸表（連結）

連結損益計算書（要旨）

（単位：千円）

科目	当期	前期
	H17.4.1～H18.3.31	H16.4.1～H17.3.31
売上高	14,618,455	10,680,594
売上原価	10,569,919	8,495,262
販売費及び一般管理費	1,877,575	1,676,620
営業利益	2,170,959	508,711
営業外収益	23,928	14,789
営業外費用	98,316	136,845
経常利益（△損失）	2,096,570	386,655
特別利益	358	6,000
特別損失	25,247	31,782
税金等調整前 当期純利益（△損失）	2,071,681	360,872
法人税、住民税及び 事業税	787,251	15,667
法人税等調整額	19,365	△513,432
少数株主利益（△損失）	13,226	12,476
当期純利益	1,251,838	846,160

連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：千円）

科目	当期	前期
	H17.4.1～H18.3.31	H16.4.1～H17.3.31
営業活動による キャッシュ・フロー	△355,331	945,663
投資活動による キャッシュ・フロー	△199,410	△92,119
財務活動による キャッシュ・フロー	1,709,872	△373,497
現金及び現金同等物に 係る換算差額	2,230	△2,065
現金及び現金同等物の 増加額	1,157,360	477,980
現金及び現金同等物の 期首残高	900,820	422,839
現金及び現金同等物の 期末残高	2,058,181	900,820



修正装置 Jupiter シリーズ

財務諸表（連結）

連結貸借対照表（要旨）

（単位：千円）

科目	当期		前期	
	H17.4.1～H18.3.31		H16.4.1～H17.3.31	
資産の部				
流動資産	12,772,198		8,220,784	
現金及び預金	2,058,181		900,820	
受取手形及び売掛金	8,541,553		4,905,488	
たな卸資産	1,486,597		1,591,129	
繰延税金資産	494,053		513,362	
その他	193,891		311,245	
貸倒引当金	△2,078		△1,261	
固定資産	539,203		434,415	
有形固定資産	322,379		265,882	
無形固定資産	16,254		16,436	
投資その他の資産	200,569		152,096	
資産合計	13,311,401		8,655,199	

（単位：千円）

科目	当期		前期	
	H17.4.1～H18.3.31		H16.4.1～H17.3.31	
負債の部				
流動負債	7,952,744		4,648,944	
支払手形及び買掛金	3,636,176		2,881,685	
短期借入金	2,800,000		1,000,000	
1年内返済予定の長期借入金	50,000		237,495	
未払法人税等	803,485		29,790	
未払金	214,630		289,054	
賞与引当金	88,686		65,076	
製品保証引当金	135,000		100,400	
その他	150,340		119,865	
固定負債	68,641		113,624	
長期借入金	50,000		100,000	
繰延税金負債	1,459		206	
退職給付引当金	17,182		13,417	
負債合計	8,021,385		4,762,568	
少数株主持分	—		27,636	
資本の部	5,290,016		3,864,994	
資本金	2,122,862		2,048,761	
資本剰余金	1,778,800		2,552,431	
利益剰余金	1,352,118		△747,451	
その他有価証券評価差額金	2,214		403	
為替換算調整勘定	35,601		11,596	
自己株式	△1,581		△746	
負債、少数株主持分及び資本合計	13,311,401		8,655,199	

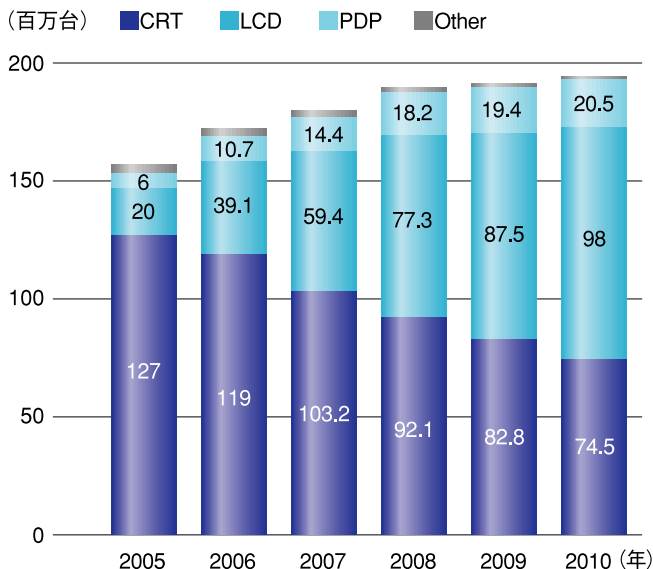
市場動向

世界のテレビ市場について

2005年の世界のテレビ市場は、出荷台数ベースで約1億6,000万台、金額ベースで約7兆円を超える規模となりました。そのうち液晶・PDPといった薄型テレビは約3,000万台で、テレビ市場全体の20%に満たない程度でしたが、日本国内では初めて薄型テレビがブラウン管テレビの出荷台数を上回りました。今後も、北京オリンピックや世界各地でのアナログ放送からデジタル放送への完全移行（日本は2011年、中国では2015年etc.）などが追い風となり、ブラウン管テレビから薄型テレビへの買い替え需要はますます高まると予想されます。

中でも液晶テレビの成長率は著しく、2006年から2010年のテレビ市場全体の年平均成長率が3%と予想されているのに対し、液晶テレビは年平均25%以上で成長し、2009年には全世界的にもブラウン管を追い抜き2010年にはシェア50%以上に上ると予測されます。

■ テレビ市場予測



TV市場全体では2006～2010年平均で約3%、LCDは25%以上の成長と予測。

設備投資動向について

2005年の年度末に国内メーカーが世界初となる2m角以上のガラス基板サイズを扱う第8世代ラインを立ち上げました。2006年度も大手パネルメーカーが引き続き第7、第7.5世代といった大型ラインへの設備投資を計画する一方、リスクが少なく、生産性の高い第5、第5.5世代への投資を行うパネルメーカーも増加しております。

■ 主なLCDパネルメーカーの設備投資動向 (検査関連装置設置時期ベース)

2006			2007
VTEC10期Q1 (4～6月)	VTEC10期Q2 (7～9月)	VTEC10期Q3 (10～12月)	VTEC10期Q4 (1～3月)
三星電子(韓) Gen7 Ph2	シャープ(日) Gen8 Ph2	シャープ(日) Gen8 Ph3	シャープ(日) Gen8 Ph3-2
LG Philips LCD(韓) Gen7.5 Ph1		LG Philips LCD(韓) Gen5.5 Ph1	三星電子(韓) Gen8 Ph1
DNP(日) Gen6 Ph2	凸版印刷(日) Gen8 Ph1	凸版印刷(日) Gen8 Ph2	DNP(日) Gen8 Ph1
AUO(台) Gen7.5 Ph1	AUO(台) Gen6 Ph3	AUO(台) Gen7.5 Ph2	CMO(台) Gen7.5 Ph2
CMO(台) Gen5 Ph1	CMO(台) Gen7.5 Ph1		QDI(台) Gen6 Ph3
SVA-NEC(中) Gen5 Ph2	QDI(台) Gen6 Ph2	Arrow(中) Gen5 Ph1	
	INNOLUX(台) Gen5 Ph2	Concordia(中) Gen5 Ph1	

営業の概況

来期の見通し

当社グループの主要取引先であるLCD業界は、2006年度も高い投資意欲を維持していくと思われます。また、中国本土での設備投資が本格化すると考えております。当社グループはこの商機を逃さず、新たな事業拠点の開設など中国展開も含めて積極的な営業活動を展開し、売上の伸長を図りたいと考えております。

また、新規事業の液晶基板製造装置も現在受注済の装置を速やかに立ち上げ、次の商談に繋げられるように事業基盤を整備して行きたいと考えております。

通期の業績予想に関しましては、売上につきましては、4ページに記載したとおり受注残高が98億円あり、また現在の商談状況も順調に推移しており、売上高の伸長が可能であると思われまます。経常利益につきましては、引き続き原価、経費などの管理を強化し、売上伸長分に見合う利益増加を見込んでおります。純利益につきましては、税務上の繰越欠損金が解消することから税金費用負担が増加します。以上から連結業績は、売上高200億円、経常利益30億円、当期純利益18億円を見込んでおります。単体業績は、売上高198億円、経常利益27億円、当期純利益15億5千万円を見込んでおります。

● 第10期業績予想 (H.18.4.1~H.19.3.31)

売上高 ⇒ 200億円

経常利益 ⇒ 30億円

当期純利益 ⇒ 18億円

事業戦略

1 液晶用露光装置の受注開始

昨年6月関連子会社を設立し、参入を果たした露光装置事業は試作機の客先評価が終了し、2月発表の通り国内メーカー向けに1号機を受注致しました。今後も積極的な受注活動を進めてまいります。

2 レーザー発振器の製品化

液晶カラーフィルタ(CF)修正装置のキーパーツである、レーザー加工機「Callisto」を自社開発致しました。顧客ニーズに応え、高速で高品質な薄膜レーザー加工を実現する事で、カラーフィルタ(CF)修正装置の基本性能を向上させ、顧客の満足を得ることができました。「Callisto」は、自社装置に搭載するだけでなく、外販も行っております。



3 配向膜(PI)・TFTアレイ修正装置の開発

液晶カラーフィルタ(CF)やTFTアレイパネル上に形成される、液晶を配向させるための配向膜(100nm以下の非常に薄い膜)のピンホール欠陥を修正するため、カラーフィルタ(CF)のピンホール欠陥修正技術の応用としたマイクロスタンプディスペンサ方式を開発いたしました。配向膜の成膜にはPI(ポリイミド)溶液が使用されますが、このPI溶液をマイクロスタンプディスペンサにより再現性よく、修正箇所塗布することができる新しい機構となっております。弊社顧客による点灯試験等もクリアし、本格導入がはじまりつつあります。

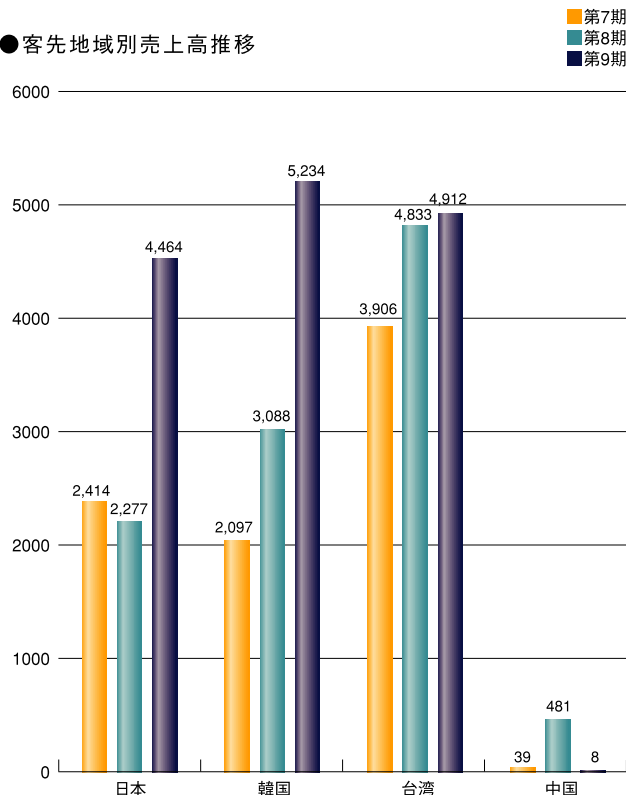
また、従来より開発を進めてまいりました液晶TFTアレイ基板の走査・信号配線におけるオープン欠陥を修正するTFTアレイ修正装置も開発を完了、受注を開始しております。

営業の概況(連結)

利益に関しましては、原価の低減や追加コストの発生抑制に努めたことにより、売上総利益率が改善(対前年比7.2%増加)し、売上拡大に伴う発送費などの増加(対前年比2億円増加)を吸収して、連結営業利益は21億7千万円(対前年比327%増)、連結経常利益は20億9千6百万円(対前年比442%増)となりました。

また、税務上の繰越欠損金が解消したことによる納付税額の増加及び法人税等調整額の見直しにより税金費用が増加しておりますが、上記状況から連結純利益は12億5千1百万円(対前年比48%増)と過去最高益を計上するに至りました。

●客先地域別売上高推移



セグメント別概況

■検査関連装置事業

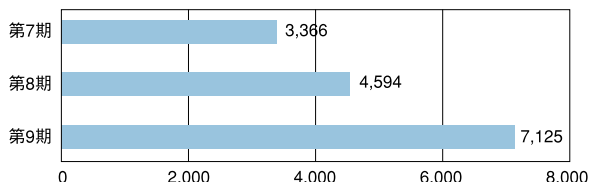
検査関連装置事業の連結売上高は141億5千4百万円(対前年比33%増)、利益率の高い修正装置の売上比率が高かったこともあり、営業利益は21億8千1百万円(対前年比329%増)となりました。

●主要製品別売上高推移

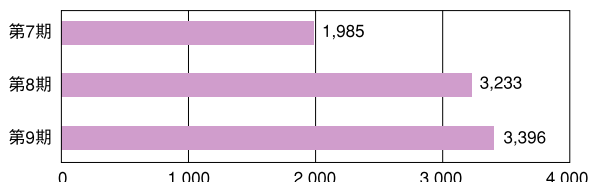
・検査装置



・修正装置



・測定/観察装置



■液晶基板関連装置事業

平成17年6月に液晶基板製造装置の開発、製造を目的として(株)ブイ・イメージング・テクノロジーを設立し、新規事業を立ち上げました。当連結会計年度の連結売上高は評価機とその周辺業務のみの4億3千1百万円でした。

研究開発費用が嵩んだことから、連結営業利益は9百万円の赤字となりました。

営業の概況

営業の概況（連結）

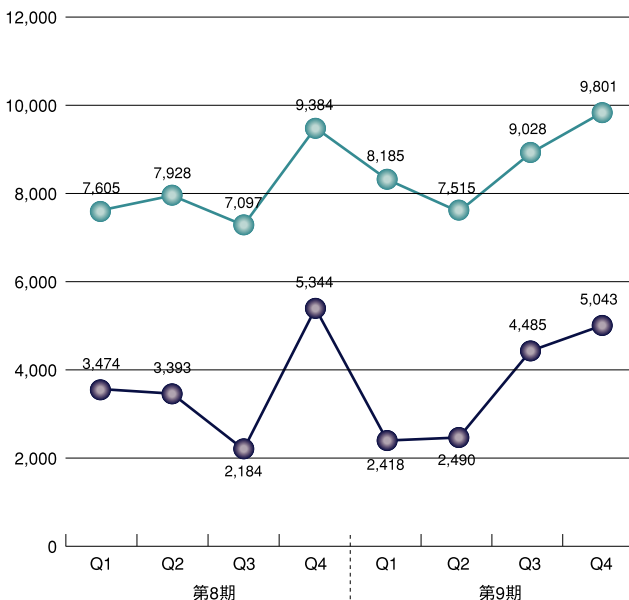
当連結会計年度におけるわが国経済は、企業収益の改善、設備投資の増加、個人消費の持ち直しなど、回復基調で推移しています。また、当社グループの商圏である東アジアにおいては、IT 関連財が主導して景気拡大が続いています。

当社グループの主要取引先のFPD業界は、パネル価格の下落などの問題点はあるものの、投資意欲は総じて高い水準で推移しています。ただし個々の企業収益にはバラツキが生じており、台湾で業界第1位のAUOが第4位のQDIを吸収する旨の発表があったように再編が進む可能性があります。

このような状況の中、主力商品の修正装置を中心に拡販に努めた結果、当社グループの当連結会計年度における受注高は148億8千6百万円（受注残高98億1百万円）と好調に推移いたしました。

売上に関しましては、修正装置が大幅に伸長がしたこと、仕向地別では国内及び韓国メーカー向けが好調だったことなどにより売上高は、146億1千8百万円（前年比37%増）となりました。

● 四半期毎の受注残・受注額推移



株主のみなさまへ

もう1つ上のフィールドへ。
業界屈指の技術力で
提供する、
トータルソリューション。



代表取締役社長
杉本 重人

当社グループは、設立以来、成長率と市場規模ともに拡大しているLCDおよびPDP向け検査関連装置分野に経営資源を集中し、顧客に対する「トータルソリューション」の提供を目標として装置開発に努め、カラーフィルターの検査、測定、観察および修正装置のフルラインナップ化を実現するとともに、顧客のニーズに素早く対応する体制を確立してまいりました。

第9期は、既存市場での新たなセグメントに進出すべくTFT基板修正装置を開発し、LCDのTFT基板用検査装置の一括供給体制を整えてまいりました。また、本年1月、LCD基板の露光装置の受注により、露光装置市場へ本格的に参入を開始いたしました。今後、TFT基板、カラーフィルターの露光装置市場に積極的に営業を展開していく予定です。FPD業界における検査装置市場での新規分野への参入によるマーケットシェアの拡大と、検査装置より市場規模の大きいLCD基板用露光装置への本格参入により、当社グループは、第10期に、200億円の売上を見込んでおります。

当社グループは、設立後9年経過し、新技術開発力の強化、技術ノウハウの蓄積、コスト管理体制の強化等の課題に挑戦し、改善を進めてまいりました。今後は、東京証券取引所1部への指定替えを視野に入れ、内部管理体制の強化をおこなっていく所存です。株主の皆様には、末筆ながら、今後とも当社の発展を支えていただけますよう心からお願い申し上げます。

会社の概要 (2006年3月31日現在)

社 名 株式会社バイ・テクノロジー
 代表取締役 杉本 重人
 設 立 1997年10月16日
 資 本 金 21億2,286万2千円
 社 員 数 103名

役 員
 代表取締役社長 杉本 重人
 常務取締役 梶山 康一
 取 締 役 藤岡 譲三郎
 常勤監査役 藤井 邦夫
 監 査 役 濱野 勝義
 監 査 役 中西 一之

事業所

本社・ショールーム 横浜市保土ヶ谷区神戸町134
 YBPイーストタワー 9F
 TEL:045-338-1980
 FAX:045-338-1781

子 会 社

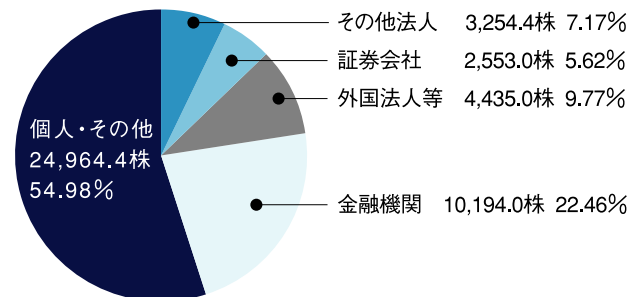
日 本 株式会社バイ・イメージング・テクノロジー
 横浜市保土ヶ谷区神戸町134
 YBPイーストタワー 9F
 TEL:045-338-1925
 FAX:045-338-1782

韓 国 V Technology Korea Co., Ltd.
 #718 Beaksuk, Cheonan, Chung Nam, Korea
 TEL:82-41-564-6181
 FAX:82-41-564-0133

台 湾 V-TEC Co., Ltd.
 4F, No.223, Yong-an Rd., Taoyuan City,
 Taoyuan County 330, Taiwan R.O.C.
 TEL:886-3-3360600
 FAX:886-3-3360202

株式の状況 (2006年3月31日現在)

- 会社が発行する株式の総数……………175,903株
 - 発行済株式総数……………45,400.8株
 - 株主数……………5,201名
- 株式所有者別分布



● 大株主 (上位10名)

杉本重人	5,013.2 株	11.04%
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社 (信託口)	4,241.0	9.34
日本証券金融株式会社	2,811.0	6.19
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社 (信託口)	1,753.0	3.86
バイ・テクノロジー社員持株会	1,558.2	3.43
内田 荘一郎	1,480.0	3.26
大和証券株式会社	1,028.0	2.26
株式会社菱光社	766.8	1.69
ビーエヌピーパブリバセキリティーズ サービスロンドン/ジャスデック/ ユーケーレジイデンツ	700.0	1.54
資産管理サービス信託銀行株式会社 (証券投資信託口)	649.0	1.43